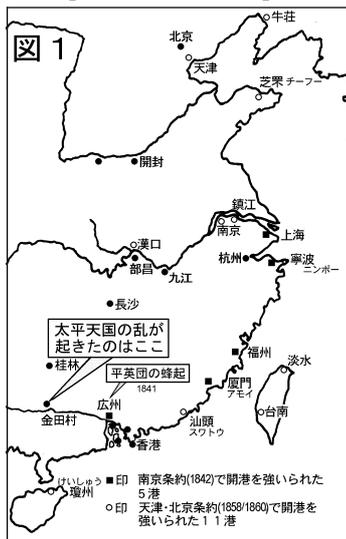


太平天国の乱 1851～64年 中国近代史上最大の反乱！ この最中に第二次アヘン戦争（1856～60年）。

- 1) アヘン戦争（1840～42）の結果、民衆の生活はますます悪化した。
 ①戦費や賠償金支払いのための増税、②【1: 】価格の急騰で更に実質増税、③飢饉も起き、④アヘンの密輸入が公然と行われ、⑤貿易の中心が上海などに移り従来の商業路は衰え、失業者が増加した。
- 2) 【2: 】こうしゅうぜん 1813-64 は、宗教結社【3: 】はいじょうていかい ※1 を結成した。 10W
 スローガンは【4: 】めつまんこうかん ※2。
 洪秀全は広東省の客家 ハッカ ※3 出身。科挙に数回失敗。キリスト教に触れ、自分はイエスの弟だと信じた。上帝会はキリスト教的秘密結社、上帝とはヤハウェである。平等を主張したので客家、貧農が支持した。上帝会員は辮髪を拒否したので清朝から長髪賊と呼ばれた。白蓮教は弥勒下生信仰の仏教的秘密結社。元代の紅巾の乱も白蓮教徒。
 ※1 上帝会 とも言う。
 ※2 「反清復明」（はんしんふくみん 『【4】』と同じ意味）をスローガンとし、運輸労働者を中心とする秘密組織も華中・華南に存在した。このスローガンは白蓮教徒の乱でも使われた。
 《比較》義和団事件（1900-01）の義和団のスローガンは「扶清滅洋」「除教安民」である。
 ※3 客家は「ハッカ」と読み、本地（ほんち）の反対語。「よそ者」の意味。広東、広西、江西、福建などの山間部や僻地に移り住んだ人々。差別・圧迫を受け、海外移民も多数。
- 3) 1851年1月、洪秀全は広西省 08J の金田村で挙兵し、【5: 】の樹立を宣言した。その主張は、儒教・伝統秩序打破を基調に、次のようなものだった。
 ①「減満興漢」＝清朝打倒 辮髪 べんぱつ 廃止
 ②土地の均分（男女とも） 【6: 】てんちょうでんぼせいど ……結局実施されなかった！
 ③男女平等 ④租税の軽減 ⑤纏足 てんそく など因習の廃止 ⑥アヘンの除去
 太平天国軍は、江西省の【7: 】きんでんそん から北上、規律は厳格だった。1853年には武昌を奪い【8: 】を攻略、「天京 てんけい」と改称、彼らの首都とした。この時上記②等を発表。別動隊が北伐と華中支配をねらった。変革の不徹底と内紛で弱体化、1856年以降は内紛が激化して敗北を重ね、1864年に洪秀全死亡。同年、南京が陥落し敗北した。
- 4) 太平天国の乱の歴史的な意義は大きい。
 ①間違いなく中国近代史上最大の反乱。
 ②農民にとどまらずあらゆる社会階層を含む反乱。
 ③民族主義的性格を持つ。スローガンに【9: 】はまだない！真の敵は見えていない。
 ④平等を主張し革命的性格を持つ。民衆の間に語り継がれ、近代中国の民族運動に大きな影響を与えた。
- 5) 反乱は連鎖的に起こり、貴州では先住民ミャオ族（苗族）、陝西・甘粛・雲南ではムスリムの回民が蜂起。安徽では盗賊と農民が結びついた捻軍が活動した。河南・山東・江蘇でも農民反乱は起きた。
- 6) 清朝は太平天国の乱を、列強の進出以上の脅威ととらえたが八旗・緑營の正規軍では手に負えず、地元の有力者が編成した団練が主に郷村を自衛し、郷勇が鎮圧にあたった。郷勇には【10: 】そうこくはん 1811-72 の湘軍 しょうぐん、【11: 】りこうしょう 1823-1901 の淮軍 わいぐん などがある。



《団練・郷勇・軍閥について》

団練とは郷紳が組織した郷村自衛のための武装民兵組織。費用は郷紳が私財を投じた。郷勇とは、清朝が八旗・緑營の正規軍の戦闘力不足を補うため臨時に組織した軍隊で、基本的に傭兵から成る政府軍。団練は有力な傭兵供給源であり、団練を束ねて郷勇が編成される例もあったため、参考書には「団練を統合したものは郷勇 しょうゆう と呼ばれる」という説明も見られる。誤りではないが正確ではない。入試問題のリード文では団練と郷勇を同じものとして扱う表現もあるが、これは誤りである。

一例を挙げれば、淮軍は李鴻章が私財を投じて兵を募り、訓練した団練（民兵）に始まり、後に清朝の命を受け、郷勇に再組織された。その郷勇は日清戦争（1894）で壊滅的な打撃を受けて解散を余儀なくされ、軍の近代化の必要性を痛感した清朝は李鴻章らに新製の軍隊を編成させたが、そこには旧郷勇の将兵が多数参加した。そして義和団事件後の光緒新政（No.165参照）で袁世凱（李鴻章の後継者）のもとに新軍に再編成され、後の北洋軍閥へとつながっていくことになる。こうした事情から「郷勇→軍閥」という単純な理解で出題されることもある。概して、軍閥という用語は袁世凱の死去（1916）以降に使われる。

- 7) 列強は当初中立的だったが、アロー戦争終結（1860）後は清朝の側に立った。特にイギリスははっきりと清朝の側に立ち鎮圧に力を貸した。アメリカ人ウォードや、洋式訓

練をうけた中国人部隊（＝【12: 】）を率いて李鴻章に協力したイギリスのゴードン 1833-85らが有名である。ゴードンは、後に転戦先のスーダンでマフディー国家との戦闘で戦死している。

《復習》図1の■印で示したのは南京条約（1842）で開港を強いられた5港。北から上海、寧波 ニンポー、福州、廈門 アモイ、広州。…既にこの時点で広州が貿易の中心から外れ、重心が上海に移動せざるを得ないことが分かる。

天津・北京条約では、これに加えて更に11港が開港を強いられた。図1の○印がそれである。牛荘、天津、から海岸を南へ、芝罘 チーフー、淡水、台南、汕頭 スワトウ、瓊州 ケイシュウ、長江を上流から漢口、南京、鎮江。

《作業》太平天国軍のおよその進軍路を図1に記入しなさい。

